

SSH通信

スーパーサイエンスハイスクール
岩手県立水沢高等学校
第22号 2018年2月28日 発行

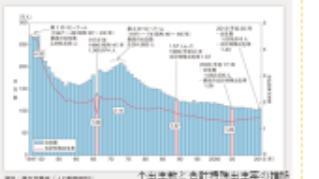
1 学年 SA ポスターセッション 学年全体で発表

1年生のSSH 学校設定科目「サイエンス・アクセス (SA)」では、クラス毎に、「情報」「福祉」「医療」「エネルギー」「環境」「都市構造・都市計画」「防災」「流通経済」の8つのテーマに生徒達に分かれ、郷土や科学技術がかかわる現代社会の問題について調査・研究を進めてきました。その成果を、1月30日に行われたSA 全体ポスター発表会(学年でのグループ別ポスターセッション)で披露しました。冬休み明けにはパワーポイントを用いて口頭によるクラス発表会を行い、そこでの質問や意見をもとに内容を深めてきました。それを基にポスターの作成やポスターでの発表、質疑応答の準備を行い、全体ポスター発表会に臨みました。前期でSIを行ったため、後期からの授業開始となり、時間が十分ではありませんでしたが、調査・まとめ・発表と形は整えることができました。

1年生の生徒全員がテーマ毎に教室に分かれ、さらに各クラス1名ずつの小グループになって発表する形式で行いました。一人ひとりが調査・研究の成果を他のクラスの生徒の前でポスターを使って発表し合い、それぞれの内容について討論しました。聞き役の生徒も、それぞれ類似の分野について研究してきているので、的確な質問や意見が出されていました。また、発表者も、様々な意見に対し、ポスターに盛り込めなかった内容や自分の考えを盛り込み真摯に答えていて、活発な意見交換がなされました。来年度からは2学年普通科でも課題研究が始まります。SAでの学びをさらに発展させていきます。

62 **福祉～子育てしやすい社会～**
6組 高橋舞 高橋優吉 千田美未 千葉泰誠 千葉雄志

1.テーマ設定理由
福祉という幅広いジャンルの中でも現在問題になっている「少子化」についてより深く調べ、今、日本が行っている政策や対策、少子化から脱出した海外の事例をもとに、あと数年で社会人となり今後の社会を担っていく私たちに必要なことは何かを考えるため。



合計特殊出生率
*人口統計上の指標で、一人の女性が生涯平均とされる15歳から49歳までに産む子供の数の平均。

子育て支援の課題
●働き方改革に関する取り組みが進んでいない。
・子育て期にある30代調査の4人に1人は1人1人50時間以上残業しており、子育てと両立が難しい状態。
・保育園に空きが集中している。
・育児休業制度の利用率が低い状態。
●子育て支援サービスが子ども1人1人に届いていない。
・地域活動など
●企業が社会に貢献することが難しい経済状況。
・富者の所得が高く、格差が拡大。
・所得の不安定な層が社会的、経済的に孤立できず、格差を縮めることが難しい状況。

〈世界の事例〉

① [スウェーデン]
性別平等や社会福祉政策によって解決した。
○性別平等政策
○子育て支援する政策を広くとることで促進される制度
○高い育児給付金
○高い育児休業制度
*女性: 1年あたり 15.5万円、男性: 5.5万円 (日本女性: 70.6%、男性: 24.2%)
また、日本はOECD国の中で最も高い出生率を誇る国である。
*スウェーデンは高い出生率になっている。

② [フランス]
フランスの社会政策
フランスは「社会福祉システム」になっている。
○男女平等政策
○子育て期に、特に三人以上の子供を育てている層に対し、大規模な給付金
○第三子の支援
○社会保険
○子ども一人あたりに支給する手当が他国より高
○高収入の層は高給付金
○保育サービスの充実

まとめ
福祉、日本では少子高齢化が進んでおり、日本は対策がとられていない。その中でも、これから子育てをしていく世代の働き方改革は重要で、「働き方改革」の取り組みは必要だと感じている。また、これからの育児経済を構築していくためには、日本もスウェーデンのような社会政策の取り組みが必要で、仕事と育児の両立を促していく必要がある。
この問題を個人で考えるのではなく、もっと高収入で働き、また、日本の少子化問題をまた知らない人もたくさんいると思うので、これから高収入の中で、実践や交流を通して理解を深めていきたい。

図1 「福祉」を研究したポスター



図2 「医療」の発表



図3 「都市構造・都市計画」の発表